

平成30年8月教育委員会議

平成31年度使用広島市立義務教育諸学校用教科用図書採択について

資料 2

平成30年8月20日

広島市教育委員会様

広島市教科用図書採択審議会

会長

平口 英文



平成31年度使用広島市立義務教育諸学校用教科用図書採択について（答申）

平成30年5月23日付け、広市教学指二第51号で諮問されたこのことについては、別紙
のとおり答申します。

平成31年度に使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔国語〕 種目〔国語〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、全小学校第1学年から第4学年において帯時間を設定し、読んだり書いたりすることの反復学習を継続している。また、児童の思考力・判断力・表現力を高めるために、指導事項を明確にすることや言語活動の充実を図ることなどに重点を置いた授業改善を推進している。
- 平成29年度の「基礎・基本」定着状況調査によると、本市の児童の学力の実態として、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域においては学力が概ね定着しているが、主語・述語の関係等の言葉の特徴やきまりに関する事項や、条件に従って自分の考えを記述したり、情報を取り出して関連付け、問題に対して的確に記述したりするなど、実生活や各教科の様々な場面に活用する力に課題があることが明らかになった。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 単元の目標及びまとめの示し方 ② 言葉の特徴やきまりに関する事項の扱い方 ③ 伝統と文化に関する内容の記述
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④ 問題解決的な学習を実施するための工夫 ⑤ 興味・関心を高めるための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 年間の学習内容の見通しのもたせ方 ⑦ 単元や資料等の配列 ⑧ 系統性と反復性の工夫
＜内容の表現・表記＞	⑨ 挿絵・写真等の活用 ⑩ 巻末資料の示し方 ⑪ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑫ 学校図書館機能の活用 ⑬ ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

3 各教科書の特徴及び意見

東京書籍	<p>1 基礎・基本の定着</p> <p>(1) <u>単元の目標及びまとめの示し方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元冒頭と単元末の「てびき」により具体的な目標を示している。 ○ 単元末に目標に対応した学習を振り返る観点を示している。 ○ 単元末の「言葉の力」に学習の重点となる事項をまとめている。 <p>(2) <u>言葉の特徴やさまりに関する事項の扱い方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導要領との関連が明確な言葉の特徴やさまりに関する小単元を設けている。 ○ 単元末「言葉」に語彙や語型・文型を示している。 ○ 3年に国語辞典、4年に漢字辞典の使い方を示している。 <p>(3) <u>伝統と文化に関する内容の記述</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 伝統と文化を学ぶ単元を各学年5～6か所設けている。 ○ 日本の伝統と文化への理解と愛着を深める教材を使用している。 <p>2 主体的に学習に取り組む工夫</p> <p>(1) <u>問題解決的な学習を実施するための工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 問題解決的な学習の基盤となるノート指導を行うために、2年以上の各学年に「国語のノートの作り方」を設けている。 ○ 単元冒頭や単元末「てびき」に学習の手順を示している。 ○ 各単元が「つかむ」、「取り組む」、「振り返る」、「広げる」という構成になっている。 <p>(2) <u>興味・関心を高めるための工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 3年上に鞆の浦を題材にした俳句を掲載している。 ○ 5年に熊野筆を取り上げた教材文を掲載している。 ○ 5・6年に「文芸ひろしま」（広島市未来都市創造財団）の俳句を掲載している。 ○ 6年にヒロシマをテーマにした「ヒロシマのうた」を掲載している。 ○ 6年に広島の無形民族文化財である子ども神楽を掲載している。 <p>3 内容の構成・配列・分量</p> <p>(1) <u>年間の学習内容の見通しのもたせ方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2年以上の各学年の冒頭に「どんな学習をするのかな」のページを設け、年間の学習内容を示している。 <p>(2) <u>単元や資料等の配列</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1年から4年までは2冊、5・6年は1冊で構成している。 ○ 上巻は1単元1領域、下巻は各領域を組み合わせた単元を配列している。 ○ 4年は9単元を設定している。 <p>(3) <u>系統性と反復性の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習内容の活用を促すために「つながる」のコーナーを設けて、既習学習を示している。 ○ 他教科や実生活での活用を図るための「ひろがる」のコーナーを設けている。 ○ 巻末の「言葉の力」のまとめに前学年の学習内容を併記している。 ○ 随所に前学年で学習した漢字の復習を取り上げている。 <p>4 内容の表現・表記</p> <p>(1) <u>挿絵・写真等の活用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 吹き出しと挿絵を随所に扱い、考えるヒントを示している。 ○ 各単元に課題解決のための資料として活用する挿絵や写真を複数掲載している。 <p>(2) <u>巻末資料の示し方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 並行読書・発展読書に活用する文学的な文章と説明的な文章を付録として掲載している。 ○ 「学習で使う言葉」、「言葉の力のまとめ」など学習内容をまとめて掲載している。 ○ 他教科や総合的な学習の時間に国語科の学習内容を活用するための「言葉の力を活用しよう」を設けている。 ○ 原稿用紙の使い方や宛名の書き方など、各学年で身に付けるべきことを示している。 <p>(3) <u>配色や文字の大きさ等の工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。 ○ 文字は、読みやすい書体を使用している。 <p>5 言語活動の充実</p> <p>(1) <u>学校図書館機能の活用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各学年に図書館の活用の仕方を学ぶ「図書館へ行こう」の小単元を設けている。 ○ 「こんな本もいっしょに」に教材文に関連する本を紹介している。 ○ 2年以上の夏休み前の時期に読書へ誘う「本は友達」のコーナーを設けている。 <p>(2) <u>ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 単元名に単元のねらいに即した明確な言語活動を示している。 ○ 4・5年に図表やグラフと文章を関連付けて読む単元を設けている。
	<p>意見</p> <p>東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。 (理由)</p> <p>東京書籍の教科書は、各単元が「つかむ」、「取り組む」、「振り返る」、「広げる」という構成になっており、問題解決的な学習を実施するための工夫を施している。また、学習内容の活用を促すために「つながる」のコーナーや、他教科や実生活での活用を図るために「ひろがる」のコーナーを設けている。さらに、学校図書館機能の活用を促すページが充実している。こうした特徴は、実生活や各教科等の様々な場面に国語科の学習内容を活用する力に課題がある本市児童の状況に対応することができるものである。</p>

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標及びまとめの示し方

- 単元冒頭と単元末の「学習のてびき」により具体的な目標を示している。
- 単元末の「国語のカギ」に学習の重点となる事項をまとめている。

(2) 言葉の特徴やきまりに関する事項の扱い方

- 学習指導要領との関連が明確な言葉の特徴やきまりに関する小単元「言葉のきまり」を設けている。
- 3年に国語辞典、4年に漢字辞典の使い方を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 伝統と文化を学ぶ単元を各学年1～2か所設けている。
- 日本の伝統と文化への理解と愛着を深める教材を使用している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 問題解決的な学習の基盤となるノート指導を行うために、3年にノート例を示している。
- 単元冒頭や単元末の「学習の手引き」に番号を付して学習の手順を示している。

(2) 興味・関心を高めるための工夫

- 1年上の目次に動物の顔を指で押さえてページを開くインデックスを採用している。
- 3年以上の各学年にプレ教材を設け、主体的に学習することができるようにしている。
- 6年上にヒロシマをテーマにした「ヒロシマの傷」を掲載している。
- 6年上にヒロシマをテーマにした「川とノリオ」を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 年間の学習内容の見通しのもたせ方

- 各学年の巻末に「保護者の方へ」のページを設け、目指すことと単元名を示している。

(2) 単元や資料等の配列

- 各学年とも2冊で構成している。
- 1領域を集中的に扱う単元と各領域を組み合わせる単元を配列している。
- 4年は12単元を設定している。

(3) 系統性と反復性の工夫

- 随所に前学年で学習した漢字の復習を取り上げている。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の活用

- 吹き出しと挿絵を随所に扱い、考えるヒントを示している。
- 各単元に課題解決のための資料として活用する挿絵や写真を複数掲載している。

(2) 巻末資料の示し方

- 並行読書・発展読書に活用する文学的な文章と説明的な文章を付録として掲載している。
- 「授業で使う言葉」「国語のカギ」など学習内容をまとめて掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。
- 文字は、読みやすい書体を使用している。

5 言語活動の充実

(1) 学校図書館機能の活用

- 各学年の巻末で図書館の活用の仕方等を取り上げている。
- 「本と友達 読書の部屋」で教材文に関連する本を紹介している。

(2) ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

- 単元名に言語活動を示している。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標及びまとめの示し方

- 単元冒頭と単元末に目標を示している。
- 「話すこと・聞くこと」領域のみ、単元末に目標に対応した学習を振り返る観点を示している。
- 単元末の「覚えておきましょう」に学習の重点となる事項をまとめている。

(2) 言葉の特徴やきまりに関する事項の扱い方

- 学習指導要領との関連が明確な言葉の特徴やきまりに関する小単元を設けている。
- 2年以上の各学年に国語辞典、3年以上の各学年に漢字辞典の活用に関する教材を設けている。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 伝統と文化を学ぶ単元を各学年1～2か所設けている。
- 日本の伝統と文化への理解と愛着を深める教材を使用している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 単元冒頭や単元末に番号を付して学習の手順を示している。

(2) 興味・関心を高めるための工夫

- 4年にヒロシマをテーマにした「いわたくんちのおばあちゃん」を掲載している。
- 6年に原爆投下に触れた「猿橋勝子」を掲載している。
- 6年に「平和な世界を築くために」というテーマのパネルディスカッションを取り上げている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 年間の学習内容の見通しのもとせ方

- 3年以上の各学年の冒頭に年間の単元名とめあてを示している。

(2) 単元や資料等の配列

- 1年は、上下巻、2年以上の各学年は、本編と別冊「小学生の国語学びを広げる」の2冊で構成している。
- 1単元1領域に焦点化して配列している。
- 4年は10単元を設定している。

(3) 系統性と反復性の工夫

- 随所に前学年で学習した漢字の復習を取り上げている。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の活用

- 吹き出しと挿絵を随所に扱い、考えるヒントを示している。
- 各単元に課題解決のための資料として活用する挿絵や写真を複数掲載している。

(2) 巻末資料の示し方

- 「小学生の国語学びを広げる」に、並行読書・発展読書に活用する文学的な文章と説明的な文章を付録として掲載している。
- 「覚えておきましょう」に学習内容をまとめて掲載している。
- 他教科や総合的な学習の時間に国語科の学習内容を活用するための別冊「学びを広げる」に「言葉のポケット」を設けている。
- 原稿用紙の使い方や宛名の書き方など、各学年で身に付けるべきことを示している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。
- 文字は、読みやすい書体を使用している。

5 言語活動の充実

(1) 学校図書館機能の活用

- 各学年に図書館の活用の仕方を学ぶ「図書館へ行こう」の小単元を設けている。
- 「読むこと」だけでなく他領域でも関連する本を紹介している。
- 2年以上の夏休み前の時期に読書へ誘う「あまんさんの部屋」を設けている。

(2) ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

- 単元名に言語活動を示している。
- 4・5年に図表やグラフと文章を関連付けて読む単元を設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標及びまとめの示し方

- 単元冒頭と単元末により具体的な目標を示している。
- 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」領域の単元末に目標に対応した学習を振り返る観点を示している。
- 単元末の「ここが大事」に学習の重点となる事項をまとめている。

(2) 言葉の特徴やきまりに関する事項の扱い方

- 学習指導要領との関連が明確な言葉の特徴やきまりに関する小単元を設けている。
- 「読むこと」領域の単元末の「言葉」に特徴的な言葉の用法を取り上げている。
- 3年に国語辞典、4年に漢字辞典の使い方を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 伝統と文化を学ぶ単元を各学年2～4か所設けている。
- 日本の伝統と文化への理解と愛着を深める教材を使用している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 単元冒頭や単元末に番号を付して学習の手順を示している。

(2) 興味・関心を高めるための工夫

- 1・2年に紙人形など切り取って学習に活用する付録がある。
- 6年にヒロシマをテーマにした「川とノリオ」を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 年間の学習内容の見通しのもたせ方

- 各学年の巻末に「この本で学ぶこと」のページを設け、年間の学習内容を示している。

(2) 単元や資料等の配列

- 各学年とも2冊で構成している。
- 1領域を集中的に扱う単元と各領域を組み合わせる単元を配列している。
- 4年は17単元を設定している。

(3) 系統性と反復性の工夫

- 巻末の「国語学習これまでこれから」に心に残った学習や次学年で学びたいことを記すページを設けている。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の活用

- 吹き出しと挿絵を随所に扱い、考えるヒントを示している。
- 各単元に課題解決のための資料として活用する挿絵や写真を複数掲載している。

(2) 巻末資料の示し方

- 「言葉の木」に言葉をまとめて掲載している。
- 手紙の書き方や区切り符号の使い方など、各学年で身に付けるべきことを示している。
- 「読みたい本」に本の紹介をしている。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。
- 文字は、読みやすい書体を使用している。

5 言語活動の充実

(1) 学校図書館機能の活用

- 1・2・3・4年に図書館の活用の仕方を学ぶ「図書館へ行こう」の小単元を設けている。
- 巻末で本を紹介している。

(2) ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

- 単元名に言語活動を示している。
- 4年に図表やグラフと文章を関連付けて読む単元を設けている。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標及びまとめの示し方

- 単元冒頭と単元末により具体的な目標を示している。
- 単元末に目標に対応した学習を振り返る観点を示している。
- 単元末の「たいせつ」に学習の重点となる事項をまとめている。

(2) 言葉の特徴やきまりに関する事項の扱い方

- 学習指導要領との関連が明確な言葉の特徴やきまりに関する小単元を設けている。
- 「読むこと」領域の単元末の「言葉」に特徴的な言葉の用法を取り上げている。
- 3年に国語辞典、4年に漢字辞典の使い方を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 伝統と文化を学ぶ単元を各学年1～2か所設けている。
- 日本の伝統と文化への理解と愛着を深める教材を使用している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 問題解決的な学習を実施するための工夫

- 問題解決的な学習の基盤となるノート指導を行うために、3年にノート例を示している。
- 単元冒頭や単元末に番号を付して学習の手順を示している。
- 「読むこと」領域の単元は、手引きを2段組で構成し、上段に読みの観点を下段に言語活動の手順を示している。

(2) 興味・関心を高めるための工夫

- 3年以上の各学年にプレ教材を設け、主体的に学習することができるようにしている。
- 6年に原爆ドームについて触れた「平和のとりでを築く」を掲載している。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 年間の学習内容の見通しのもたせ方

- 3年以上の各学年の冒頭に「学習を見わたそう」のページを設け、年間の学習内容を示している。

(2) 単元や資料等の配列

- 1年から4年までは2冊、5・6年は1冊で構成している。
- 1領域を集中的に扱う単元と各領域を組み合わせて扱う単元を配列している。
- 4年は11単元を設定している。

(3) 系統性と反復性の工夫

- 2年以上の各巻冒頭に「いつも気をつけよう」のページを設けて既習学習を示している。
- 随所に前学年で学習した漢字の復習を取り上げている。

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵・写真等の活用

- 吹き出しと挿絵を随所に扱い、考えるヒントを示している。
- 各単元に課題解決のための資料として活用する挿絵や写真を複数掲載している。

(2) 巻末資料の示し方

- 並行読書・発展読書に活用する文学的な文章と説明的な文章を付録として掲載している。
- 「学習で用いる言葉」、「『たいせつ』のまとめ」に学習内容をまとめて掲載している。
- 「この本、読もう」に単元と関連した本を紹介している。
- 2年以上の各学年の上巻末の「言葉の宝箱」に学年に応じた語彙を示している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- 配色は、カラーユニバーサルデザインを意識している。
- 文字は、読みやすい書体を使用している。

5 言語活動の充実

(1) 学校図書館機能の活用

- 各学年に図書館の活用の仕方を学ぶ小単元を設けている。
- 「この本、読もう」で教材文に関連する本を紹介している。

(2) ねらいに応じた言語活動の設定及びその工夫

- 単元名に言語活動を示している。
- 4・5年に図表やグラフと文章を関連付けて読む単元を設けている。

意見

光村図書出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

光村図書出版の教科書は、「読むこと」領域の単元末に特徴的な言葉の用法を取り上げ、言葉の特徴やきまりについての学習内容の定着を図る工夫をしている。また、各学年に図書館の活用の仕方を学ぶ小単元を設けている。こうした特徴は、言葉の特徴やきまりに関する事項の定着に課題がある本市児童の状況や言語活動の充実を図る必要がある本市の実態に対応することができるものである。

平成31年度に使用する広島市立小学校用教科用図書の採択について（答申）

教科〔国語〕種目〔書写〕

1 本市の実態や児童の状況

- 本市では、各家庭において年賀状や手紙を書く機会が減少している中、小学校教育研究会国語部会が主催する「書き初め会」を実施するなど、伝統と文化に触れる体験をさせることができるよう取組を進めている。
- 入学前に誤った筆記具の持ち方や姿勢等を習得していたり、担任以外の教諭が書写を担当したりすることがあることから、限られた時間の中で基礎・基本を確実に習得させることや、学習内容を各教科や日常生活に生かすことが難しい状況にある。

2 調査・研究の観点と視点

観 点	視 点
＜基礎・基本の定着＞	① 単元の目標の示し方 ② 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方 ③ 伝統と文化に関する内容の記述
＜主体的に学習に取り組む工夫＞	④ 興味・関心を高めるための工夫 ⑤ 学習内容の定着のための工夫
＜内容の構成・配列・分量＞	⑥ 単元や資料等の配列 ⑦ 単元の数
＜内容の表現・表記＞	⑧ 挿絵や写真等の活用 ⑨ 巻末資料の示し方 ⑩ 配色や文字の大きさ等の工夫
＜言語活動の充実＞	⑪ 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

3 各教科書の特徴及び意見

東京書籍

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 単元冒頭の「調べよう」に具体的な目標を示している。

(2) 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方

- 各学年に硬筆の書く姿勢、筆記具の持ち方を、3年以上の各学年に毛筆の書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の置き方と扱い方を示している。
- 1・2・3・4年に姿勢を整える合い言葉を示している。
- 1・2年巻末に書く姿勢を整えるための「しょしゃたいそう」を掲載している。
- 1・2年に観察などの際に座って書く姿勢を示している。
- 3年以上の各学年に筆を左手で持つ児童のために用具の置き方を示している。
- 3年以上に書き初めを書くときの姿勢を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 各学年に童謡や古文・漢文などをなぞり書きするページを設けている。
- 3年に筆・硯・墨・紙の伝統的な作り方を紹介している。
- 4年に年賀状の書き方を扱っている。
- 6年に現存する筆文字を資料として掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全学年統一したマークで活動内容を示している。
- 1・2年に自己評価に活用するシールを付けている。
- 年間の見通しをもつために、巻頭に1・2年は「書写のたからばこ」3年以上の各学年に「書写のとび箱に挑戦」のページを設けている。
- 3年に熊野筆と職人へのインタビュー、4年に広島県のポスターを掲載している。

(2) 学習内容の定着のための工夫

- 毛筆の学習は硬筆から導入している。毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、関連を図っている。(硬筆→毛筆→硬筆)
- 毛筆の学習は筆圧・穂先の動き・点画のつながりなどの筆使いが伝わるよう、朱墨や墨で文字や点画を示している。
- 学び方の手順として、「調べよう」、「確かめよう」、「広げよう」、「学習を振り返ろう」を示している。
- 学習のまとめりごとに学習を振り返る観点を示している。
- 各学年に練習用のマスや行を設け練習帳の機能をもたせている。
- 3年以上の各学年にインデックスを用いて既習学習を確認できるようにしている。
- 各学年にワイドな紙面を活用して書き込み欄を多く設けている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3年以上の各学年に毛筆の単元の後硬筆の単元を設定し、関連を図っている。
- 毛筆教材は3年以上の各学年とも巻頭単元を一文字の作品にしている。

(2) 単元の数

- 1年・・・4 2年・・・4 3年・・・8 4年・・・8 5年・・・7 6年・・・7

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵や写真等の活用

- 3年は毛筆の入門期として、始筆・送筆・終筆を写真と合い言葉を用いて説明している。筆の穂の向きを折り紙の図を用いて「折り紙半分」と表現している。
- 1・2・3・4年は、書くときの手の置き方について児童の目線に合わせた挿絵や写真を用いている。
- 3年以上の毛筆の書き初めの手本には、名前の字間や文字の中心を示している。

(2) 巻末資料の示し方

- 学年別漢字配当表に示された漢字の一覧を前学年と当該学年のものについて1・2年は硬筆、3年以上の各学年は毛筆の書き文字で掲載している。
- 3年以上の各学年に、平仮名・片仮名・ローマ字の一覧、原稿用紙や手紙の書き方を掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 各学年の「生活に広げよう」のコーナーで手紙や新聞等、他教科の学習や学校行事に生かすことができる内容を扱っている。
- 各学年にノート例を示している。

意見

東京書籍の教科書は、本市で使用する教科書としてよりふさわしい。

(理由)

東京書籍の教科書は、観察などの際に座って書く姿勢や、左手で筆を持つ児童のための用具の置き方を示し、書く姿勢を整えるための「しょしゃたいそう」を掲載している。また、毛筆の学習は硬筆との関連を図るため、硬筆から導入し、毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げている。こうした特徴は、入学前に誤った筆記具の持ち方や姿勢を習得していることから学習内容を各教科や日常生活に生かすことが難しい本市の児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 学習活動ごとに具体的な目標を示している。

(2) 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方

- 各学年に硬筆の書く姿勢、筆記具の持ち方を、3年以上の各学年に毛筆の書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の置き方と扱い方を示している。
- 1・2年に姿勢を整える歌を示している。
- 3年以上に書き初めを書くときの姿勢を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 各学年に伝承されている詩歌・古文などを掲載している。
- 3年から5年に筆・墨・紙の伝統的な作り方を紹介している。
- 5年に漢字の由来を扱っている。
- 6年に現存する筆文字を資料として掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全学年統一したマークで活動内容を示している。
- 1・2年に自己評価に活用するシールを付けている。
- 3年に熊野筆を写真で取り上げ、筆が作られる様子を掲載している。

(2) 学習内容の定着のための工夫

- 毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、関連を図っている。(毛筆→硬筆)
- 毛筆の学習は筆圧・穂先の動き・点画のつながりなどの筆使いが伝わるよう、朱墨や墨で文字や点画を示している。
- 1・2年に「書写の学習の仕方」3年以上の各学年に「毛筆学習の進め方」を示している。
- 学習のまとめりごとに学習を振り返る観点を示している。
- 各学年に練習用のマスや行を設け練習帳の機能をもたせている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3年以上の各学年に毛筆の単元の後硬筆の単元を設定し、関連を図っている。
- 毛筆教材は3年以上の各学年とも巻頭単元を一文字の作品にしている。
- 3年以上の各学年で選択教材を設けている。

(2) 単元の数

- 1年・・・9 2年・・・9 3年・・・10 4年・・・9 5年・・・7 6年・・・7

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵や写真等の活用

- 3年は毛筆の入門期として、始筆・送筆・終筆を写真を用いて説明している。筆の穂の向きを三角定規の図を用いて「三角定規の斜めの線の向き」と表現している。

(2) 巻末資料の示し方

- 学年別漢字配当表に示された漢字の一覧を1・2年は硬筆、3年以上の各学年は硬筆・毛筆の書き文字で掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。
- 毛筆教材は実寸大の手本である。

5 言語活動の充実

(1) 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 各学年で、メモ・観察カード等、他教科の学習や学校行事に生かすことができる内容を扱っている。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 単元冒頭に具体的な目標を示している。

(2) 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方

- 1・2・5・6年に硬筆の書く姿勢、筆記具の持ち方を、3年以上の各学年に毛筆の書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の置き方と扱い方を示している。
- 1・2年に姿勢を整える合い言葉を示している。
- 3年以上に書き初めを書くときの姿勢を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 2・5年に昔話や俳句を扱っている。
- 4年に筆・硯・墨・紙の伝統的な作り方を紹介している。
- 2年に年賀状の書き方を扱っている。
- 6年に文字の由来を資料として掲載している。
- 6年に現存する筆文字を資料として掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 3年以上に毛筆の穂先の向きを統一したキャラクターで示している。

(2) 学習内容の定着のための工夫

- 毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、関連を図っている。(毛筆→硬筆)
- 毛筆の学習は筆圧・穂先の動き・点画のつながりなどの筆使いが伝わるよう、朱墨や墨で文字や点画を示している。
- 3年以上の各学年に学習の手順を示している。
- 学習のまとめりごとに学習を振り返る観点を示している。
- 各学年に練習用のマスや行を設け練習帳の機能をもたせている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3年以上の各学年に毛筆の単元の後に硬筆の単元を設定し、関連を図っている。
- 6年に6文字の毛筆教材を扱っている。

(2) 単元の数

- 1年・・・4 2年・・・3 3年・・・8 4年・・・7 5年・・・7 6年・・・6

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵や写真等の活用

- 3年は毛筆の入門期として、始筆・送筆・終筆を写真を用いて説明している。筆の穂の向きを時計の図を用いて説明している。
- 1・2年は書くときの手の置き方について児童の目線に合わせた挿絵や写真を用いている。

(2) 巻末資料の示し方

- 学年別漢字配当表に示された漢字の一覧を前学年と当該学年のものについて硬筆の書き文字で掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 各学年の「広げよう」のコーナーで、レポート用紙・ポスター等、他教科の学習や学校行事に生かすことができる内容を扱っている。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 単元冒頭の「めあて」に具体的な目標を示している。

(2) 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方

- 各学年に硬筆の書く姿勢、筆記具の持ち方を、3年以上の各学年に毛筆の書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の置き方と扱い方を示している。
- 1・2・3・4年に姿勢を整える合い言葉を示している。
- 裏表紙に筆記具の持ち方を再掲している。
- 3年以上に書き初めを書くときの姿勢を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 3年以上の各学年に俳句・短歌・古文などを掲載している。
- 3年に筆・硯・墨・紙の伝統的な作り方を紹介している。
- 2・4・6年に年賀状の書き方を扱っている。
- 1年に漢字の由来を扱っている。
- 6年に文字の歴史を資料として掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全学年統一したマークで活動内容を示している。

(2) 学習内容の定着のための工夫

- 毛筆教材は硬筆から導入している。毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、関連を図っている。(硬筆→毛筆→硬筆)
- 毛筆の学習は筆圧・穂先の動き・点画のつながりなどの筆使いが伝わるよう、朱墨や墨で文字や点画を示している。
- 3年以上の各学年に学習の手順として「考えよう」、「ここが大切」、「生かそう」、「振り返ろう」を示している。
- 学習のまとめりごとに学習を振り返る観点を示している。
- 各学年に練習用のマスや行を設けている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3年以上の各学年に毛筆の単元の後硬筆の単元を設定し、関連を図っている。
- 6年に選択教材を設けている。

(2) 単元の数

- 1年・・・4 2年・・・3 3年・・・8 4年・・・7 5年・・・7 6年・・・6

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵や写真等の活用

- 3年は毛筆の入門期として、始筆・送筆・終筆を写真を用いて説明している。筆の穂の向きを図を用いて説明している。

(2) 巻末資料の示し方

- 学年別漢字配当表に示された漢字の一覧を前学年と当該学年のものについて硬筆の書き文字で掲載している。
- 1年は片仮名、2・5・6年は平仮名、3・4年は平仮名・片仮名の一覧を掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 各学年の「トライあんどチャレンジ」のコーナーで、手紙・掲示物等、他教科の学習や学校行事に生かすことができる内容を扱っている。

意見

教育出版の教科書は、本市で使用する教科書としてふさわしい。

(理由)

教育出版の教科書は、毛筆の学習は硬筆との関連を図るため、硬筆から導入し、毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げる構成になっている。また、年賀状の書き方を扱っている学年が複数ある。こうした特徴は、書写の学習内容を各教科や日常生活に生かすことが難しい本市の児童の状況に対応することができるものである。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 学習活動ごとに具体的な目標を示している。

(2) 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方

- 各学年に硬筆の書く姿勢、筆記具の持ち方を、3年以上の各学年に毛筆の書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の置き方と扱い方を示している。
- 1・2・3・4年に姿勢を整える合い言葉を示している。
- 2年に筆記具の持ち方をチェックするページを設けている。
- 3年以上に書き初めを書くときの姿勢を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 4年以上の各学年に和歌・俳句・古文などを掲載している。
- 3・4年に筆・硯・墨・紙の伝統的な作り方を紹介している。
- 6年に文字の歴史を資料として掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全学年統一したマークで活動内容を示している。
- 4年生の漢字の組み立てを考えるために漢字の部分のシールを貼る学習を取り入れている。

(2) 学習内容の定着のための工夫

- 毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、関連を図っている。(毛筆→硬筆)
- 毛筆の学習は筆圧・穂先の動き・点画のつながりなどの筆使いが伝わるよう、朱墨や墨で文字や点画を示している。
- 4年以上の各学年の巻頭に「学習の進め方」を掲載している。
- 学習のまとめりに学習を振り返る観点を示している。
- 各学年に練習用のマスや行を設け練習帳の機能をもたせている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3年以上の各学年に毛筆の単元の後に硬筆の単元を設定し、関連を図っている。

(2) 単元の数

- 1年・・・6 2年・・・3 3年・・・6 4年・・・5 5年・・・3 6年・・・4

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵や写真等の活用

- 3年は毛筆の入門期として、始筆・送筆・終筆を写真を用いて説明している。筆の穂の向きを図を用いて説明している。
- 1・2年は、書くときの手の置き方について児童の目線に合わせた挿絵や写真を用いている。
- 3年以上の毛筆の書き初めの手本には、名前の文字数による字間を示している。

(2) 巻末資料の示し方

- 学年別漢字配当表に示された漢字の一覧を前学年のものについては硬筆、当該学年のものについては1・2年は硬筆、3年以上の各学年は硬筆と毛筆の書き文字で掲載している。
- 2・3年は平仮名・片仮名、4・5・6年は平仮名・片仮名・ローマ字の一覧、2年以上の各学年に原稿用紙やはがき等の書き方を掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 各学年にリーフレット・パンフレット等、他教科の学習や学校行事に生かすことができる内容を扱っている。

1 基礎・基本の定着

(1) 単元の目標の示し方

- 単元冒頭に具体的な目標を示している。

(2) 書く姿勢・筆記具の持ち方・用具の扱い方等の示し方

- 各学年に書く姿勢、筆記具の持ち方を、3年以上の各学年に書く姿勢、筆記具の持ち方、用具の置き方と扱い方を示している。
- 1・2・3・4年に姿勢を整える合い言葉を示している。
- 3年以上に書き初めを書くときの姿勢を示している。

(3) 伝統と文化に関する内容の記述

- 2年以上の各学年に童謡・和歌・俳句・古文などを掲載している。
- 5年に筆・硯・墨・紙の伝統的な作り方を紹介している。
- 1・2年に年賀状の書き方を扱っている。
- 1年に漢字の由来を扱っている。
- 6年に文字の歴史を資料として掲載している。

2 主体的に学習に取り組む工夫

(1) 興味・関心を高めるための工夫

- 全学年統一したマークで活動内容を示している。

(2) 学習内容の定着のための工夫

- 毛筆教材の後、同じねらいをもつ硬筆教材を取り上げ、関連を図っている。(毛筆→硬筆)
- 毛筆の学習は筆圧・穂先の動き・点画のつながりなどの筆使いが伝わるよう、朱墨や墨で文字や点画を示している。
- 各学年に学習の手順として「考える」、「確かめる」、「書いてみる(いかす)」を示すとともに、5・6年の巻頭に「学習の進め方」を掲載している。
- 学習のまとめりごとに学習を振り返る観点を示している。
- 各学年に練習用のマスや行を設けている。

3 内容の構成・配列・分量

(1) 単元や資料等の配列

- 3年以上の各学年に毛筆の単元の後硬筆の単元を設定し、関連を図っている。
- 毛筆教材は3年以上の各学年とも巻頭単元を一文字の作品にしている。
- 1・3年以外の各学年に前学年での既習事項を振り返る単元を設定している。

(2) 単元の数

- 1年・・・6 2年・・・5 3年・・・7 4年・・・6 5年・・・6 6年・・・6

4 内容の表現・表記

(1) 挿絵や写真等の活用

- 3年は毛筆の入門期として、始筆・送筆・終筆を写真を用いて説明している。筆の穂の向きを図を用いて「折り紙半分」と説明している。
- 1・2年は、書くときの手の置き方について児童の目線に合わせた挿絵や写真を用いている。

(2) 巻末資料の示し方

- 学年別漢字配当表に示された漢字の一覧を硬筆の書き文字で書き順とともに掲載している。
- 3年以上の各学年に、平仮名・片仮名・ローマ字の一覧を掲載している。

(3) 配色や文字の大きさ等の工夫

- カラーユニバーサルデザインに配慮している。

5 言語活動の充実

(1) 他教科や日常生活に生きる言語活動の工夫

- 1年に「ひろがる まなび」、2年以上の各学年に「ひろがる まなび、もっと書こう」のコーナーを設け、日記・新聞等、他教科の学習や学校行事に生かすことができる内容を扱っている。